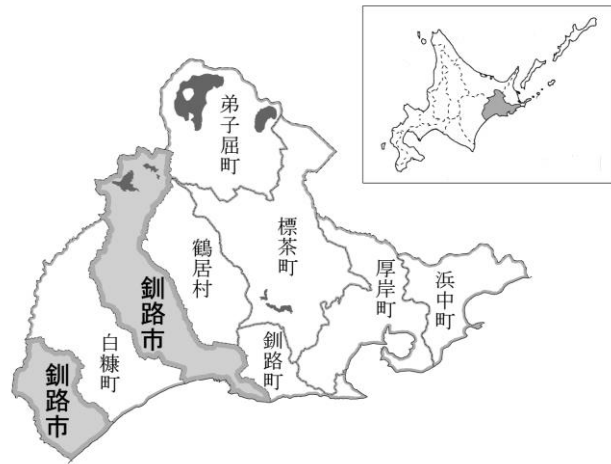


水道施設の概要について

釧路市上下水道部が管理する水道施設は下表のとおりで、上水道が1箇所、簡易水道が4箇所5浄水場である。

上水道と山花簡易水道を浄水課、阿寒簡易水道と阿寒湖畔簡易水道を阿寒上下水道課、音別簡易水道を音別上下水道課が管理している。



事業名	施設の名 称	水 源	浄水能力 (m^3 /日)	浄 水 方 法	給水区域 (計画給水人口)
釧路市上水道	愛国浄水場	新釧路川	90,915	接触高速凝集沈殿方式 (PAC、4池) 急速砂ろ過(除マンガン)方式(12池) 前・中・後塩素処理 (次亜塩素酸ナトリウム) 前・後アルカリ処理 (水酸化ナトリウム) 粉末活性炭処理、酸処理 (硫酸)	釧路市及び 釧路町の一部 (182,903人)
簡易水道 阿寒	阿寒浄水場	シュンク シタカラ川 (表流水及び 伏流水)	2,260	傾斜板式凝集沈殿方式(PAC、2池) 急速ろ過方式 (3池) 後塩素処理 (次亜塩素酸ナトリウム)	釧路市 阿寒地区 (2,667人)
簡易水道 阿寒湖畔	阿寒湖畔 浄水場	チップ川	2,600	凝集・繊維ろ過及び膜ろ過方式 (UF膜、3系列) 中・後塩素処理 (次亜塩素酸ナトリウム)	釧路市 阿寒湖畔地区 (1,400人)
音別簡易水道	音別浄水場	地下水	1,848	膜ろ過方式 (MF膜、3系列) 後塩素処理(次亜塩素酸ナトリウム)	釧路市 音別地区 (2,800人)
	直別浄水場	地下水	22	膜ろ過方式 (MF膜、1系列) 後塩素処理(次亜塩素酸ナトリウム)	釧路市 直別地区 (40人)
簡易水道 山花	山花 簡易水道 施設	地下水	316	pH調整 (二酸化炭素) 後塩素処理(次亜塩素酸ナトリウム)	釧路市 山花地区 (800人)

なお、施設の配置状況は次のとおりである。



検査項目及び検査方法 (定量下限、検査方法は釧路市上下水道部が採用しているもの)

(1) 水質基準項目

項 目 名	単位	基準値	定量下限	検査方法	備考
1 一般細菌	個/mL	1mLの検水で形成される集落数が100以下	—	標準寒天培地法	病原微生物
2 大腸菌	—	検出されないこと	—	MMO-MUG法 原水系はMPN法	
3 カドミウム及びその化合物	mg/L	カドミウムの量に関して、 0.003mg/L以下	0.0003	ICP-MS法	金属類
4 水銀及びその化合物	mg/L	水銀の量に関して、 0.0005mg/L以下	0.00005	還元気化-原子吸光法	
5 セレン及びその化合物	mg/L	セレンの量に関して、 0.01mg/L以下	0.001	ICP-MS法	
6 鉛及びその化合物	mg/L	鉛の量に関して、 0.01mg/L以下	0.001	ICP-MS法	
7 ヒ素及びその化合物	mg/L	ヒ素の量に関して、 0.01mg/L以下	0.0005	ICP-MS法	
8 六価クロム化合物	mg/L	六価クロムの量に関して、 0.02mg/L以下	0.002	ICP-MS法	
9 亜硝酸態窒素	mg/L	0.04mg/L以下	0.004	イオンクロマトグラフ法(陰イオン)	無機物
10 シアン化物イオン及び塩化シアン	mg/L	シアンの量に関して、 0.01mg/L以下	0.001	イオンクロマトグラフ -ポストカラム吸光光度法	消毒剤・消毒副生成物
11 硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	mg/L	10mg/L以下	0.02	イオンクロマトグラフ法(陰イオン)	無機物
12 フッ素及びその化合物	mg/L	フッ素の量に関して、 0.8mg/L以下	0.05	イオンクロマトグラフ法(陰イオン)	
13 ホウ素及びその化合物	mg/L	ホウ素の量に関して、 1.0mg/L以下	0.1	ICP-MS法	
14 四塩化炭素	mg/L	0.002mg/L以下	0.0001	PT-GCMS法	有機物
15 1,4-ジオキサン	mg/L	0.05mg/L以下	0.0005	PT-GCMS法	
16 シス-1,2-ジクロロエチレン及びトランス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.04mg/L以下	0.0002	PT-GCMS法	
17 ジクロロメタン	mg/L	0.02mg/L以下	0.0001	PT-GCMS法	
18 テトラクロロエチレン	mg/L	0.01mg/L以下	0.0001	PT-GCMS法	
19 トリクロロエチレン	mg/L	0.01mg/L以下	0.0001	PT-GCMS法	
20 ベンゼン	mg/L	0.01mg/L以下	0.0001	PT-GCMS法	
21 塩素酸	mg/L	0.6mg/L以下	0.05	イオンクロマトグラフ法	消毒剤・消毒副生成物
22 クロロ酢酸	mg/L	0.02mg/L以下	0.001	溶媒抽出-GCMS法	
23 クロロホルム	mg/L	0.06mg/L以下	0.0001	PT-GCMS法	
24 ジクロロ酢酸	mg/L	0.03mg/L以下	0.001	溶媒抽出-GCMS法	
25 ジブromクロロメタン	mg/L	0.1mg/L以下	0.0001	PT-GCMS法	
26 臭素酸	mg/L	0.01mg/L以下	0.001	イオンクロマトグラフ -ポストカラム吸光光度法	
27 総トリハロメタン	mg/L	0.1mg/L以下	0.0004	PT-GCMS法	
28 トリクロロ酢酸	mg/L	0.03mg/L以下	0.001	溶媒抽出-GCMS法	
29 プロモジクロロメタン	mg/L	0.03mg/L以下	0.0001	PT-GCMS法	
30 ブロモホルム	mg/L	0.09mg/L以下	0.0001	PT-GCMS法	
31 ホルムアルデヒド	mg/L	0.08mg/L以下	0.001	溶媒抽出-GCMS法	
32 亜鉛及びその化合物	mg/L	亜鉛の量に関して、 1.0mg/L以下	0.01	ICP-MS法	金属類
33 アルミニウム及びその化合物	mg/L	アルミニウムの量に関して、 0.2mg/L以下	0.01	ICP-MS法	
34 鉄及びその化合物	mg/L	鉄の量に関して、 0.3mg/L以下	0.01	ICP-MS法	
35 銅及びその化合物	mg/L	銅の量に関して、 1.0mg/L以下	0.01	ICP-MS法	
36 ナトリウム及びその化合物	mg/L	ナトリウムの量に関して、 200mg/L以下	0.5	フレイム-原子吸光光度法	
37 マンガン及びその化合物	mg/L	マンガンの量に関して、 0.05mg/L以下	0.001	ICP-MS法	
38 塩化物イオン	mg/L	200mg/L以下	1.0	イオンクロマトグラフ法(陰イオン)	無機物
39 カルシウム、マグネシウム等(硬度)	mg/L	300mg/L以下	0.5	滴定法 (EDTA)	
40 蒸発残留物	mg/L	500mg/L以下	50	重量法	その他
41 陰イオン界面活性剤	mg/L	0.2mg/L以下	0.02	固相抽出-HPLC法	有機物
42 ジェオスミン	mg/L	0.00001mg/L以下	0.000001	PT-GCMS法	
43 2-メチルイソボルネオール	mg/L	0.00001mg/L以下	0.000001	PT-GCMS法	
44 非イオン界面活性剤	mg/L	0.02mg/L以下	0.005	固相抽出-吸光光度法	
45 フェノール類	mg/L	フェノールの量に換算して、 0.005mg/L以下	0.0005	固相抽出-誘導体化GCMS法	
46 有機物(全有機炭素(TOC)の量)	mg/L	3mg/L以下	0.3	全有機炭素計測定法	その他
47 pH	—	5.8以上8.6以下	0.1間隔	ガラス電極法	
48 味	—	異常でないこと	—	官能法	
49 臭	—	異常でないこと	—	官能法	
50 色	度	5度以下	0.5	透過光測定法(390nm)	
51 濁	度	2度以下	0.05	積分球式光電光度法	

(2) 水質管理目標設定項目

項目名	単位	目標値	定量下限	検査方法	備考
1 アンチモン及びその化合物	mg/L	アンチモンの量に関して、 0.02mg/L以下	0.0001	ICP-MS法	金属類
2 ウラン及びその化合物	mg/L	ウランの量に関して、 0.002mg/L以下(暫定)	0.0001	ICP-MS法	
3 ニッケル及びその化合物	mg/L	ニッケルの量に関して、 0.02mg/L以下	0.001	ICP-MS法	
4 欠番					
5 1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.004mg/L以下	0.0001	PT-GCMS法	有機物
6 欠番					
7 欠番					
8 トルエン	mg/L	0.4mg/L以下	0.0001	PT-GCMS法	有機物
9 フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)	mg/L	0.08mg/L以下	0.005	溶媒抽出-GCMS法	
10 亜塩素酸	mg/L	0.6mg/L以下	0.05	イオンクロマトグラフ法	消毒剤・消毒副生成物
11 欠番					
12 二酸化塩素	mg/L	0.6mg/L以下	—	イオンクロマトグラフ法	
13 ジクロロアセトニトリル	mg/L	0.01mg/L以下(暫定)	0.001	溶媒抽出-GCMS法	
14 抱水クロラール	mg/L	0.02mg/L以下(暫定)	0.001	溶媒抽出-GCMS法	
15 農薬類	mg/L	検出値と目標値の比の 和として、1以下	—	農薬ごとに定められた方法による	農薬
16 残留塩素	mg/L	1mg/L以下	0.05	DPD法	臭気
17 カルシウム、マグネシウム等(硬度)	mg/L	10mg/L以上 100mg/L以下	0.5	滴定法(EDTA)	味覚
18 マンガン及びその化合物	mg/L	0.01mg/L以下	0.001	ICP-MS法	色
19 遊離炭酸	mg/L	20mg/L以下	0.1	滴定法	味覚
20 1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	0.3mg/L以下	0.0001	PT-GCMS法	臭気
21 メチル-tert-ブチルエーテル	mg/L	0.02mg/L以下	0.0001	PT-GCMS法	
22 有機物等 (過マンガン酸カリウム消費量)	mg/L	3mg/L以下	0.2	滴定法(酸性法)	味覚
23 臭気強度(TON)	—	3以下	1	官能法	臭気
24 蒸発残留物	mg/L	30mg/L以上 200mg/L以下	50	重量法	味覚
25 濁度	度	1度以下	0.05	積分球式	濁り
26 pH値	—	7.5程度	0.1間隔	ガラス電極法	腐食
27 腐食性(ランゲリア指数)	—	-1程度以上とし、 極力0に近づける	—	計算法	
28 従属栄養細菌	個/mL	1mLの検水で形成される 集落数が2000以下(暫定)	—	R2A寒天培地法	病原微生物
29 1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.1mg/L以下	0.0001	PT-GCMS法	有機物
30 アルミニウム及びその化合物	mg/L	0.1mg/L以下	0.01	ICP-MS法	金属類
31 へルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及びへルフルオロオクタン酸(PFOA)	mg/L	へルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及び へルフルオロオクタン酸(PFOA)の和として 0.00005mg/L以下(暫定)	—	固相抽出-LC-MS法	有機物

(3) 一般項目

項目	単位	目標値など	定量下限	検査方法	備考	
アンモニア態窒素	mg/L		0.02	α-ナフトール法		
紫外部吸光度(E260)	abs		0.001	吸光光度法(50mmセル)		
電気伝導率	μS/cm		1	電極法		
アルカリ度	mg/L		1	滴定法		
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L		0.1	電極法		
浮遊物質(SS)	mg/L		1	GFPろ過法		
トリハロメタン生成能	mg/L		0.001	PT-GCMS法		
ハロ酢酸生成能	mg/L		0.001	溶媒抽出-GCMS法		
ホルムアルデヒド生成能	mg/L		0.001	溶媒抽出-GCMS法		
ジクロロアセトニトリル生成能	mg/L		0.001	溶媒抽出-GCMS法		
抱水クロラール生成能	mg/L		0.001	溶媒抽出-GCMS法		
総窒素	mg/L		0.01	へルキリ二硫酸カリウム分解 吸光光度法		
総リン	mg/L		0.005	へルキリ二硫酸カリウム分解 吸光光度法(モリブデン青)		
生物	n/mL		0.1	標準計数板法		
嫌気性芽胞菌	MPN/100mL		—	疎水格子フィルター法		
クリプトスポリジウム等	原水系個/10L、浄水系個/20L		—	ろ過濃縮、磁気ビーズ FITC-DAPI染色		
銀及びその化合物	mg/L	0.01mg/L以下	0.005	ICP-MS法		水道用薬品
バリウム及びその化合物	mg/L	0.07mg/L以下	0.005	ICP-MS法		評価試験に
モリブデン及びその化合物	mg/L	0.007mg/L以下	0.0035	ICP-MS法		適用

(4) 農薬類（水質管理目標設定項目15）の対象農薬リスト

項 目	単 位	目 標 値	用 途
1 1, 3-ジクロロプロペン (D-D) 注1)	mg/L	0.05	殺虫剤
2 2, 2-DPA (ダラボン)	mg/L	0.08	除草剤
3 2, 4-D (2, 4-P A)	mg/L	0.02	除草剤
4 EPN 注2)	mg/L	0.004	殺虫剤
5 MCPA	mg/L	0.005	除草剤
6 アシュラム	mg/L	0.9	除草剤
7 アセフェート	mg/L	0.006	殺虫剤・殺菌剤
8 アトラジン	mg/L	0.01	除草剤
9 アニロホス	mg/L	0.003	除草剤
10 アミトラズ	mg/L	0.006	殺虫剤
11 アラクロール	mg/L	0.03	除草剤
12 イソキサチオン 注2)	mg/L	0.005	殺虫剤
13 イソフェンホス 注2)	mg/L	0.001	殺菌剤
14 イソプロカルブ (MIPC)	mg/L	0.01	殺虫剤
15 イソプロチオラン (IPT)	mg/L	0.3	殺虫剤・殺菌剤・植物成長調整剤
16 イブフェンカルバゾン	mg/L	0.002	除草剤
17 イプロベンホス (IBP)	mg/L	0.09	殺菌剤
18 イミノクタジン	mg/L	0.006	殺虫剤・殺菌剤
19 インダノファン	mg/L	0.009	除草剤
20 エスプロカルブ	mg/L	0.03	除草剤
21 エトフェンブロックス	mg/L	0.08	殺虫剤・殺菌剤
22 エンドスルファン (ベンゾエピン) 注3)	mg/L	0.01	殺虫剤
23 オキサジクロメホン	mg/L	0.02	除草剤
24 オキシ銅 (有機銅)	mg/L	0.03	殺虫剤・殺菌剤
25 オリサストロビン 注4)	mg/L	0.1	殺虫剤・殺菌剤
26 カズサホス	mg/L	0.0006	殺虫剤
27 カフェンストール	mg/L	0.008	殺虫剤・除草剤
28 カルタップ 注5)	mg/L	0.08	殺虫剤・殺菌剤・除草剤
29 カルバリル (NAC)	mg/L	0.02	殺虫剤
30 カルボフラン	mg/L	0.0003	代謝物
31 キノクラミン (ACN)	mg/L	0.005	除草剤
32 キャプタン	mg/L	0.3	殺菌剤
33 クミルロン	mg/L	0.03	除草剤
34 グリホサート 注6)	mg/L	2	除草剤
35 グルホシネート	mg/L	0.02	除草剤・植物成長調整剤
36 クロメプロップ	mg/L	0.02	除草剤
37 クロルニトロフェン (CNP) 注7)	mg/L	0.0001	除草剤
38 クロルピリホス 注2)	mg/L	0.003	殺虫剤
39 クロロタロニル (TPN)	mg/L	0.05	殺虫剤・殺菌剤
40 シアナジン	mg/L	0.001	除草剤
41 シアノホス (CYAP)	mg/L	0.003	殺虫剤
42 ジウロン (DCMU)	mg/L	0.02	除草剤
43 ジクロベニル (DBN)	mg/L	0.03	除草剤
44 ジクロルボス (DDVP)	mg/L	0.008	殺虫剤
45 ジクワット	mg/L	0.01	除草剤
46 ジスルホトン (エチルチオメトン)	mg/L	0.004	殺虫剤
47 ジチオカルバメート系農薬 注8)	mg/L	0.005	殺虫剤・殺菌剤
48 ジチオピル	mg/L	0.009	除草剤
49 シハロホップブチル	mg/L	0.006	除草剤
50 シマジン (CAT)	mg/L	0.003	除草剤
51 ジメタメトリン	mg/L	0.02	除草剤
52 ジメトエート	mg/L	0.05	殺虫剤
53 シメトリン	mg/L	0.03	除草剤
54 ダイアジノン 注2)	mg/L	0.003	殺虫剤・殺菌剤
55 ダイムロン	mg/L	0.8	殺虫剤・殺菌剤・除草剤

項 目	単位	目標値	用途
56 ダゾメット、メタム (カーバム) 及びイソメチルチオシアネート 注9)	mg/L	0.01	殺菌剤
57 チアジニル	mg/L	0.1	殺虫剤・殺菌剤
58 チウラム	mg/L	0.02	殺虫剤・殺菌剤
59 チオジカルブ	mg/L	0.08	殺虫剤
60 チオファネートメチル	mg/L	0.3	殺虫剤・殺菌剤
61 チオベンカルブ	mg/L	0.02	除草剤
62 テフリルトリオン	mg/L	0.002	除草剤
63 テルブカルブ (MBPMC)	mg/L	0.02	除草剤
64 トリクロピル	mg/L	0.006	除草剤
65 トリクロルホン (DEP)	mg/L	0.005	殺虫剤
66 トリシクラゾール	mg/L	0.1	殺虫剤・殺菌剤・植物成長調整剤
67 トリフルラリン	mg/L	0.06	除草剤
68 ナプロパミド	mg/L	0.03	除草剤
69 パラコート	mg/L	0.005	除草剤
70 ピペロホス	mg/L	0.0009	除草剤
71 ピラクロニル	mg/L	0.01	除草剤
72 ピラゾキシフェン	mg/L	0.004	除草剤
73 ピラゾリネート (ピラゾレート)	mg/L	0.02	除草剤
74 ピリダフェンチオン	mg/L	0.002	殺虫剤
75 ピリブチカルブ	mg/L	0.02	除草剤
76 ピロキロン	mg/L	0.05	殺虫剤・殺菌剤
77 フィブロニル	mg/L	0.0005	殺虫剤・殺菌剤
78 フェニトロチオン (MEP) 注2)	mg/L	0.01	殺虫剤・殺菌剤・植物成長調整剤
79 フェノブカルブ (BPMC)	mg/L	0.03	殺虫剤・殺菌剤
80 フェリムゾン	mg/L	0.05	殺虫剤・殺菌剤
81 フェンチオン (MPP) 注10)	mg/L	0.006	殺虫剤
82 フェントエート (PAP)	mg/L	0.007	殺虫剤・殺菌剤
83 フェントラザミド	mg/L	0.01	除草剤
84 フサライド	mg/L	0.1	殺虫剤・殺菌剤
85 ブタクロール	mg/L	0.03	除草剤
86 ブタミホス 注2)	mg/L	0.02	除草剤
87 ブプロフェジン	mg/L	0.02	殺虫剤・殺菌剤
88 フルアジナム	mg/L	0.03	殺菌剤
89 プレチラクロール	mg/L	0.05	除草剤
90 プロシミドン	mg/L	0.09	殺菌剤
91 プロチオホス 注2)	mg/L	0.007	殺虫剤
92 プロピコナゾール	mg/L	0.05	殺菌剤
93 プロピザミド	mg/L	0.05	除草剤
94 プロベナゾール	mg/L	0.03	殺虫剤・殺菌剤
95 プロモブチド	mg/L	0.1	殺虫剤・除草剤
96 ベノミル 注11)	mg/L	0.02	殺菌剤
97 ペンシクロン	mg/L	0.1	殺虫剤・殺菌剤
98 ベンゾビスクロン	mg/L	0.09	除草剤
99 ベンゾフェナップ	mg/L	0.005	除草剤
100 ベンタゾン	mg/L	0.2	除草剤
101 ベンディメタリン	mg/L	0.3	除草剤・植物成長調整剤
102 ベンフラカルブ	mg/L	0.02	殺虫剤・殺菌剤
103 ベンフルラリン (ベスロジン)	mg/L	0.01	除草剤
104 ベンフレセート	mg/L	0.07	除草剤
105 ホスチアゼート	mg/L	0.005	殺虫剤
106 マラチオン (マラソン) 注2)	mg/L	0.7	殺虫剤
107 メコプロップ (MCP P)	mg/L	0.05	除草剤
108 メソミル	mg/L	0.03	殺虫剤
109 メタラキシル	mg/L	0.2	殺虫剤・殺菌剤

項 目	単位	目標値	用途
110 メチダチオン (DMTP)	mg/L	0.004	殺虫剤
111 メトミノストロビン	mg/L	0.04	殺虫剤・殺菌剤
112 メトリブジン	mg/L	0.03	除草剤
113 メフェナセツト	mg/L	0.02	除草剤
114 メプロニル	mg/L	0.1	殺虫剤・殺菌剤
115 モリネート	mg/L	0.005	除草剤

注1) 1, 3-ジクロロプロペン (D-D) の濃度は、異性体であるシス-1, 3-ジクロロプロペン及びトランス-1, 3-ジクロロプロペンの濃度を合計して算出すること。

注2) 有機リン系農薬のうち、EPN、イソキサチオン、イソフェンホス、クロルピリホス、ダイアジノン、フェニトロチオン (MEP)、ブタミホス、プロチオホス、マラチオン (マラソン) 及びメチダチオンの濃度については、それぞれのオキシソンの濃度も測定し、それぞれの原体の濃度と、そのオキシソン体それぞれの濃度を原体に換算した濃度を合計して算出すること。

注3) エンドスルファン (ベンゾエピン) の濃度は、異性体である α -エンドスルファン及び β -エンドスルファンに加えて、代謝物であるエンドスルフェート (ベンゾエピンスルフェート) も測定し、 α -エンドスルファン及び β -エンドスルファンの濃度とエンドスルフェート (ベンゾエピンスルフェート) の濃度を原体に換算した濃度を合計して算出すること。

注4) オリサストロビンの濃度は、代謝物である (5Z)-オリザストロビンの濃度も測定し、原体の濃度と (5Z)-オリザストロビンの濃度を原体に換算した濃度を合計して算出すること。

注5) カルタップの濃度は、ネライストキシシンとして測定し、カルタップに換算して算出すること。

注6) グリホサートの濃度は、代謝物であるアミノメチルリン酸 (AMPA) も測定し、原体の濃度とアミノメチルリン酸 (AMPA) の濃度を原体に換算した濃度を合計して算出すること。

注7) クロルニトロフェン (CNP) の濃度は、アミノ体の濃度も測定し、原体の濃度とアミノ体の濃度を原体に換算した濃度を合計して算出すること。

注8) ジチオカルバメート系農薬の濃度は、ジネブ、ジラム、チウラム、プロピネブ、ポリカーバメート、マンゼブ (マンコゼブ) 及びマンネブの濃度を二硫化炭素に換算して合計して算出すること。

注9) ダゾメット、メタム (カーバム) 及びメチルイソチオシアネートの濃度は、メチルイソチオシアネートとして測定すること。

注10) フェンチオン (MPP) の濃度は、酸化物である MPPスルホキシド、MPPスルホン、MPPオキシソン、MPPオキシソンスルホキシド及び MPPオキシソンスルホンの濃度も測定し、フェンチオン (MPP) の原体の濃度と、その酸化物それぞれの濃度を原体に換算した濃度を合計して算出すること。

注11) ペノミルの濃度は、メチル-2-ベンツイミダゾールカルバメート (MBC) として測定し、ペノミルに換算して算出すること。

上水道水源地域の水域類型と環境基準等

(1) 水域類型指定の状況

対 象	水 域	当該類型
屈斜路湖（全域）		湖沼 A A 湖沼 I
釧路川上流	多和川合流点から上流（多和川を含む。）	河川 A A
釧路川下流（1）	雪裡川、茂雪裡川合流点から上流（茂雪裡川を含む。）	生物 A
釧路川中流	多和川合流点から釧路取水口まで	河川 A 生物 A
釧路川下流（2）	釧路取水口及び茂雪裡川合流点から下流	河川 B 生物 A

(2) 水質汚濁に係る環境基準

別表1 人の健康の保護に関する環境基準

項 目	基 準 値	項 目	基 準 値
カドミウム	0.003 mg/L 以下	1, 1, 2-トリクロロエタン	0.006 mg/L 以下
全シアン	検出されないこと	トリクロロエチレン	0.01 mg/L 以下
鉛	0.01 mg/L 以下	テトラクロロエチレン	0.01 mg/L 以下
六価クロム	0.02 mg/L 以下	1, 3-ジクロロプロペン	0.002 mg/L 以下
砒素	0.01 mg/L 以下	チウラム	0.006 mg/L 以下
総水銀	0.0005mg/L 以下	シマジン	0.003 mg/L 以下
アルキル水銀	検出されないこと	チオベンカルブ	0.02 mg/L 以下
P C B	検出されないこと	ベンゼン	0.01 mg/L 以下
ジクロロメタン	0.02 mg/L 以下	セレン	0.01 mg/L 以下
四塩化炭素	0.002 mg/L 以下	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10 mg/L 以下
1, 2-ジクロロエタン	0.004 mg/L 以下	ふっ素	0.8 mg/L 以下
1, 1-ジクロロエチレン	0.1 mg/L 以下	ほう素	1 mg/L 以下
シス-1, 2-ジクロロエチレン	0.04 mg/L 以下	1, 4-ジオキサン	0.05 mg/L 以下
1, 1, 1-トリクロロエタン	1 mg/L 以下		

別表2 生活環境の保全に関する環境基準（関係分のみ）

1 河川

(1) 河川（湖沼を除く。）

ア.

項目 類型	利用目的の適応性	環 境 基 準				
		p H	B O D mg/L	S S mg/L	D O mg/L	大腸菌数 CFU/100mL
A A	水道1級、自然環境保全等	6.5～8.5	1以下	25以下	7.5以上	20以下
A	水道2級、水産1級、水浴等	6.5～8.5	2以下	25以下	7.5以上	300以下
B	水道3級、水産2級等	6.5～8.5	3以下	25以下	5以上	1,000以下

イ.

項目 類型	水生生物の生息状況の 適用性	環 境 基 準				
		全亜鉛	ノニルフェ ノール	直鎖アルキル ベンゼンスルホ ン酸及びその塩		
生物 A	イワナ、サケマス等比較 的低温域を好む水生生物 及びこれらの餌生物が生 息する水域	0.03mg/L 以下	0.001mg/L 以下	0.03mg/L 以下		

別表2 生活環境の保全に関する環境基準（関係分のみ）

（2）湖沼

天然湖沼及び貯水量が1,000万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工湖

ア.及びイ.

項目 類型	利用目的の適応性	環 境 基 準				
		AA	水道1級,水産1級 自然環境保全等	pH 6.5~8.5	COD 1mg/L以下	SS 1mg/L以下
I	自然環境保全等	全窒素 0.1mg/L 以下	全リン 0.005mg/L 以下			

（注）屈斜路湖には、pH、全窒素は適用されない。

（3）排水基準適用対象湖沼の指定状況（関係分のみ）

項 目	対 象 湖 沼
窒 素	シラルトロ湖、塘路湖、達古武湖
り ん	屈斜路湖、シラルトロ湖、塘路湖、達古武湖

(4) ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止及び水産動植物被害の防止に係る指導指針

①水濁指針値

別表に掲げる農薬については、同表右欄の値を水濁指針値とする。また、別表に記載のない農薬であっても水濁基準値（農薬取締法第4条第1項第9号に基づく水質汚濁に係る農薬登録基準（平成20年環境省告示第60号）において定める基準値）が設定されているものについては、その値を10倍した値を水濁指針値とする。

②水産指針値

水産基準値（農薬取締法第4条第1項第8号に基づく生活環境動植物の被害防止に係る農薬登録基準（令和2年環境省告示第31号）のうち、農薬取締法第4条第1項第6号から第9号までに掲げる場合に該当するかどうかの基準（昭和46年3月農林省告示第346号）第3号イの基準（以下「水域の生活環境動植物の被害防止に係る農薬登録基準」という。）において定める基準値）が設定されている農薬については、その値を10倍した値を水産指針値とする。

ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止及び水域の生活環境動植物の被害防止に係る指導指針 別表

項目	単位	指針値	用途
ダイアジノン	mg/L	0.05	殺虫剤
チオジカルブ	mg/L	0.8	殺虫剤
トリクロルホン（DEP）	mg/L	0.05	殺虫剤
ペルメトリン	mg/L	1	殺虫剤
ベンスルタップ	mg/L	0.9	殺虫剤
イプロジオン	mg/L	3	殺菌剤
イミノクタジンアルベシル酸塩及びイミノクタジン酢酸塩	mg/L	0.06 (イミノクタンとして)	殺菌剤
シブロコナゾール	mg/L	0.3	殺菌剤
チウラム（チラム）	mg/L	0.2	殺菌剤
チオファネートメチル	mg/L	3	殺菌剤
トルクロホスメチル	mg/L	2	殺菌剤
バリダマイシン	mg/L	12	殺菌剤
ヒドロキシイソキサゾール（ヒメキサゾール）	mg/L	1	殺菌剤
ベノミル	mg/L	0.2	殺菌剤
シクロスルファミロン	mg/L	0.8	除草剤
シマジン（CAT）	mg/L	0.03	除草剤
トリクロピル	mg/L	0.06	除草剤
ナプロパミド	mg/L	0.3	除草剤
フラザスルフロン	mg/L	0.3	除草剤
MCPAイソプロピルアミン塩及びMCPAナトリウム塩	mg/L	0.051 (MCPAとして)	除草剤

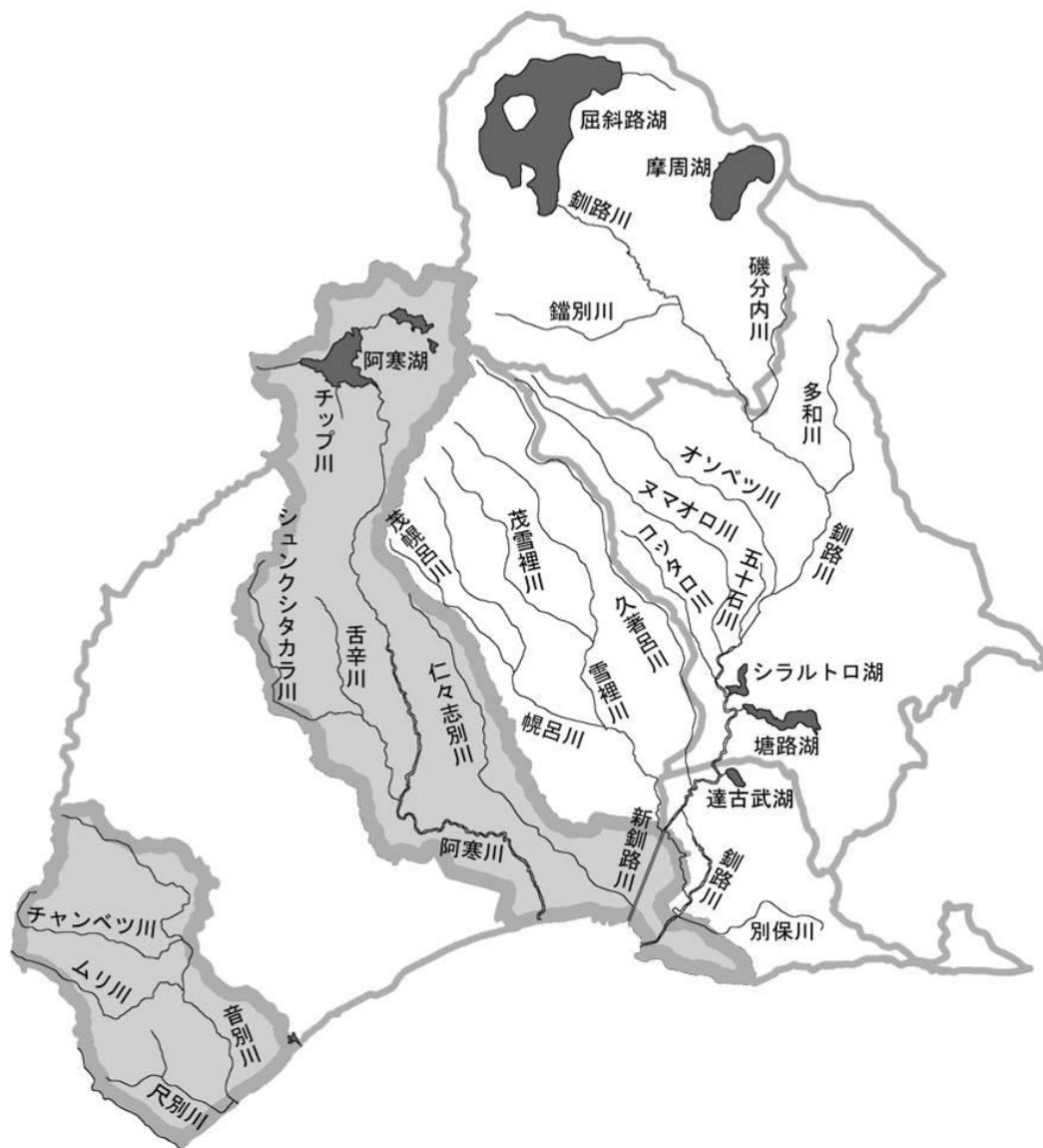
注1：表に記載の指針値は以下の式から算出している。

$$\text{指針値} = \{ \text{ADI} (\text{mg/kg 体重/日}) \times 53.3 (\text{kg}) \times 0.1 (\text{ADI の10\%配分}) / 2 (\text{L/人/日}) \} \times 10$$

注2：表に掲げた農薬の指針値についても、今後新たに水濁基準値が設定された場合にはその値の10倍値を指針値とする。

なお、水濁基準値については環境省のホームページ（http://www.env.go.jp/water/dojo/noyaku/odaku_kijun/kijun.html、「水質汚濁に係る農薬登録保留基準について」）に掲載しており、改定される場合もあるので、随時確認すること。

I 水源水質試験



1. 水源水質の現況
2. 水源水質試験採水地点
3. 釧路川水質試験結果
4. シュンクシタカラ川・チップ川水質試験結果
5. 音別川水質試験結果
6. 釧路川水質保全協議会

水質検査及び試験結果は「検査項目及び検査方法」に表示する単位で示し、定量下限値未満のものは原則として「0」と表示した。

1. 水源水質の現況

(1) 釧路川

① 釧路川の水質概況

釧路川は阿寒摩周国立公園にある屈斜路湖を源とし、釧路湿原国立公園を貫流して太平洋へ注ぐ延長 154Km、流域面積 2,510 Km² の一級河川である。

水質の特徴としては、湿原の影響を受け色度、有機物(フミン質)濃度が年間を通して高い傾向にある。また、釧路川に沿って弟子屈町や標茶町などの市街地が広がっており、また流域には広大な放牧地等も多数あり、それらの影響も受けている。

更に、およそ 30 年前より屈斜路湖の pH 値が急激に上昇し、それに伴い釧路川の pH 値も上昇傾向にあったが、近年は横ばい傾向となっている。

② 湿原 3 湖沼の概況

釧路川の東側にある 3 湖沼では、夏の水温上昇に伴い藻類が大量に発生し、愛国浄水場の浄水処理に大きな影響を与える。このため、各湖沼の藻類の検査も定期的実施している。令和 4 年度の調査では、10 月に塘路湖で珪藻類であるオーラコセイラが、達古武湖で珪藻類のキクロテラが主に発生し、例年と同程度の発生状況であった。

かび臭物質については定期試験以外に別途調査を行っており、ジェオスミンが塘路湖で 5 月中旬に 21ng/L まで上昇し、2-メチルイソボルネオールが塘路湖で 10 月中旬に 259ng/L まで上昇した。湖沼におけるかび臭物質の濃度は日射条件や降雨量等の気象条件によって変動が激しいことから、今後も湖沼の状況等について注意する必要がある。

③ クリプトスポリジウム等の検査結果

クリプトスポリジウム等について、令和 4 年度は、10 月に、クリプトスポリジウムが 1 地点で、ジアルジアが 3 地点で検出されており、指標菌である大腸菌と嫌気性芽胞菌も全ての地点で検出されていることから、今後も年間を通じた水質調査とともに継続した監視が必要である。

④ 釧路湿原自然再生事業

平成 15 年 1 月に自然再生推進法が施行され、同年 4 月に自然再生基本方針が決定された。法律に基づき、釧路湿原においても関係省庁、地方公共団体、NPO 及び地域住民等による「釧路湿原自然再生協議会」が平成 15 年 11 月に設立された。平成 17 年 3 月に釧路湿原自然再生全体構想がまとめられ、この構想に基づき、茅沼地区の旧川復元工事が実施され、平成 22 年 2 月に通水が完了した。現在は久著呂川の土砂流入対策として調整池を整備するなど、関係機関が種々の対策を実施している。

同協議会は、釧路湿原のみならず釧路川全体の水循環・物質循環の保全・再生についても検討することから、水源である釧路川の水質保全の推進も期待される。なお、同協議会には、釧路川水質保全協議会や釧路市が関係機関として参加している。

⑤ 水源水質事故

令和 4 年度に釧路川水系で発生した水質汚染事故は 5 件であり、うち 3 件が愛国浄水場取水口より上流側で発生した油流出事故であった。河川管理者がオイルフェ

ンス設置により対応した結果、本川への水質上の影響は低いと判断し、浄水処理における対応は実施しなかった。

(2) シュンクシタカラ川

シュンクシタカラ川は、延長 30.5Km、流域面積 62.6 Km²で、ほとんどが国有林の山間部を流れ阿寒川に合流する普通河川である。通常は低濁度の良好な水質であるが、降雨時には濁度および色度の急激な上昇が見られる。

令和 4 年度は 5、8、11 月及び 2 月の 4 回調査を行った。なお、一の橋については林道の通行止めにより採水できず欠測となった。

かび臭物質については定期的な降雨等により大きな濃度上昇はみられなかったが、濃度の変動が激しいことから、今後も藻類やかび臭物質の状況等を継続して調査する。

また、クリプトスポリジウム等についてはいずれも検出されなかったが、指標菌である大腸菌と嫌気性芽胞菌が検出されていること、平成 29 年度にはジアルジアが検出されていることから、今後も年間を通じた水質調査とともに継続した監視が必要である。

(3) チップ川

チップ川は、延長 2.4Km、流域面積 2.2 Km²、阿寒摩周国立公園の保護区域内で、阿寒湖に注ぐ普通河川である。水質の特徴は、火山地質由来のヒ素が検出されている。その他は、通常時は低濁度で有機物濃度の低い水質であるが、小河川で急流であるため降雨時には濁度の急激な上昇が見られる。

令和 4 年度は 5、8、11 月及び 2 月の 4 回調査を行い、ヒ素が最大で水質基準値の 4 割程度検出された。

また、クリプトスポリジウム等についてはいずれも検出されなかったが、指標菌である大腸菌が検出されていることから、今後も年間を通じた水質調査とともに継続した監視が必要である。

(4) 音別川

音別川は、釧路と十勝の境界丘陵地を源とする延長 43.1Km、流域面積 293.8Km²の太平洋に注ぐ二級河川であり、流域の大部分は山間部で、上流に数件の酪農家が点在している。音別川は直接の水源ではないが、間接的に影響を及ぼす河川のため、水源に準じた調査を行っている。

令和 4 年度は 9 月及び 12 月の 2 回調査を行ったが、12 月の千歳橋については積雪による通行不能のため採水できず、欠測となった。なお、6 月及び 3 月についても調査を予定していたが、それぞれ降雨による増水及び路面凍結のため、全地点で欠測となった。

また、クリプトスポリジウム等についてはいずれも検出されなかったが、指標菌である大腸菌が検出されていること、令和 2 年度にはジアルジアが検出されていることから、今後も年間を通じた水質調査とともに継続した監視が必要である。

2. 水源水質試験採水地点

本年度は、釧路川本川 6 地点 (3 回)、湿原湖沼 3 地点 (1 回)、釧路川支川 8 地点 (1 回)、シュンクシタカラ川 2 地点 (4 回)、チップ川 1 地点 (4 回)、及び音別川 3 地点 (2 回) で水質試験を行った。

音別川

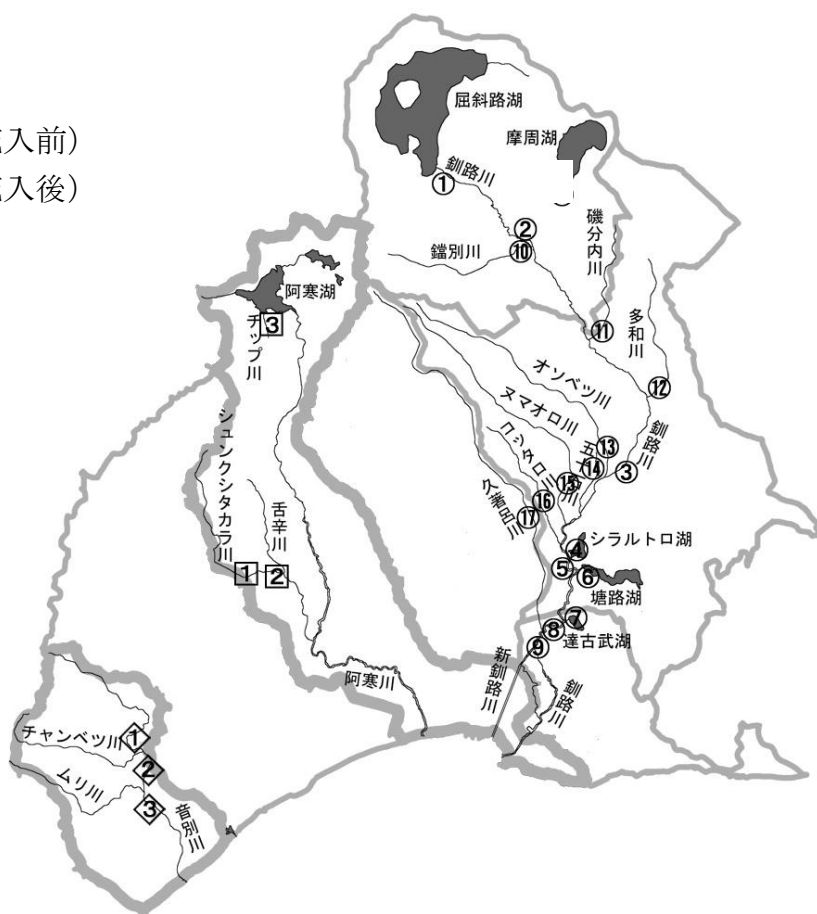
- ① 千歳橋 (チャンベツ川流入前)
- ② 陽光橋 (チャンベツ川流入後)
- ③ 初音橋 (ムリ川流入後)

シュンクシタカラ川

- ① 一の橋 (砂防ダム流入前)
- ② 取水堰

チップ川

- ③ 取水口



釧路川本川

- ① 眺湖橋 (屈斜路湖湖尻)
- ② 万翠橋 (弟子屈市街流下後)
- ③ 五十石橋 (標茶市街流下後)
- ④ シラルトロ湖
- ⑤ 二本松橋 (シラルトロ湖流入後)
- ⑥ 塘路湖
- ⑦ 達古武湖
- ⑧ 細岡 (達古武湖流入後)
- ⑨ 岩保木 (久著呂川合流後)

湿原湖沼

- ④ シラルトロ湖
- ⑥ 塘路湖
- ⑦ 達古武湖

釧路川支川

- ⑩ 鑑別川 (下鑑別橋)
- ⑪ 磯分内川 (磯分内橋)
- ⑫ 多和川 (多和川橋)
- ⑬ オソベツ川 (下オソベツ橋)
- ⑭ 五十石川 (五十石川橋)
- ⑮ ヌマオロ川 (沼幌橋)
- ⑯ コッタロ川 (コッタロ橋)
- ⑰ 久著呂川 (光橋)

3. 釧路川水質試験結果

(1) 釧路川本川

眺湖橋 (屈斜路湖出口)

水域類型：湖沼AA

	4月18日	10月14日	1月11日	最大	最小	平均	回数
当 日 天 候	曇り	晴れ	晴れ				
水 温	4.4	15.2	1.3	15.2	1.3	7.0	3
濁 度	0.65	2.0	0.93	2.0	0.65	1.2	3
色 度 (390nm)	0	0.6	0	0.6	0	0	3
電 気 伝 導 率	351	348	350	351	348	350	3
臭 気	なし	微沼沢臭	なし	微沼沢臭	なし		3
2-メチルイソホﾞルネオール	0	0	0	0	0	0	3
ジエオスミン	0	0.000001	0	0.000001	0	0	3
アンモニア態窒素	0	0	0	0	0	0	3
硝酸態窒素	0.04	0	0.03	0.04	0	0.02	3
亜硝酸態窒素	0	0	0	0	0	0	3
全 リ ン	0	0.008	0	0.008	0	0.003	3
全 窒 素	0.06	0	0.04	0.06	0	0.03	3
紫 外 部 吸 光 度 (260nm, 50mm)	0.042	0.058	0.036	0.058	0.036	0.045	3
溶 解 性 総 有 機 炭 素 (DOC)	0.9	1.4	1.0	1.4	0.9	1.1	3
p H 値	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	3
生物化学的酸素要求量 (BOD)	0.7	0.9	1.0	1.0	0.7	0.9	3
浮 遊 物 質 (SS)	0	2	0	2	0	0	3
大 腸 菌	0	6.2	0	6.2	0	2.1	3
嫌 気 性 芽 胞 菌	0	1	0	1	0	0	3
ふ っ 素	0.52	0.51	0.52	0.52	0.51	0.52	3
クリプトスポリジウム	0	0	0	0	0	0	3
ジ ア ル ジ ア	0	2	0	2	0	0	3

万翠橋 (弟子屈町市街流下後)

水域類型：河川AA

	4月18日	10月14日	1月11日	最大	最小	平均	回数
当 日 天 候	曇り	晴れ	晴れ				
水 温	6.0	13.4	1.2	13.4	1.2	6.9	3
濁 度	1.2	1.6	2.4	2.4	1.2	1.7	3
色 度 (390nm)	1.0	1.1	0.7	1.1	0.7	0.9	3
電 気 伝 導 率	289	295	309	309	289	298	3
臭 気	微藻臭	微沼沢臭	微沼沢臭	微藻臭	微沼沢臭		3
2-メチルイソホﾞルネオール	0	0	0	0	0	0	3
ジエオスミン	0	0.000001	0	0.000001	0	0	3
アンモニア態窒素	0	0	0	0	0	0	3
硝酸態窒素	0.24	0.25	0.28	0.28	0.24	0.26	3
亜硝酸態窒素	0	0	0	0	0	0	3
全 リ ン	0.022	0.020	0.030	0.030	0.020	0.024	3
全 窒 素	0.25	0.25	0.28	0.28	0.25	0.26	3
紫 外 部 吸 光 度 (260nm, 50mm)	0.072	0.079	0.166	0.166	0.072	0.106	3
溶 解 性 総 有 機 炭 素 (DOC)	1.0	1.5	1.1	1.5	1.0	1.2	3
p H 値	7.4	7.2	7.2	7.4	7.2	7.3	3
生物化学的酸素要求量 (BOD)	1.0	0.7	1.0	1.0	0.7	0.9	3
浮 遊 物 質 (SS)	3	4	4	4	3	4	3
大 腸 菌	9.7	20	120	120	9.7	50	3
嫌 気 性 芽 胞 菌	2	0	0	2	0	0	3
ふ っ 素	0.41	0.41	0.42	0.42	0.41	0.41	3
クリプトスポリジウム	0	1	0	1	0	0	3
ジ ア ル ジ ア	0	1	0	1	0	0	3

五十石橋 (標茶町市街流下後)

水域類型：河川A

	4月18日	10月14日	1月11日	最大	最小	平均	回数
当 日 天 候	曇り	晴れ	晴れ				
水 温	8.1	11.9		11.9	8.1	10.0	2
濁 度	3.0	10		10	3.0	6.5	2
色 度 (390nm)	2.4	2.5		2.5	2.4	2.5	2
電 気 伝 導 率	193	198		198	193	196	2
臭 気	藻臭	沼沢臭		藻臭	沼沢臭		2
2-メチルイソホﾞルネオール	0	0		0	0	0	2
ジ エ オ ス ミ ン	0.000001	0.000001		0.000001	0.000001	0.000001	2
ア ン モ ニ ア 態 窒 素	0	0		0	0	0	2
硝 酸 態 窒 素	0.49	0.58		0.58	0.49	0.54	2
亜 硝 酸 態 窒 素	0	0		0	0	0	2
全 リ ン	0.035	0.033		0.035	0.033	0.034	2
全 窒 素	0.56	0.62		0.62	0.56	0.59	2
紫 外 部 吸 光 度 (260nm, 50mm)	0.126	0.139		0.139	0.126	0.133	2
溶 解 性 総 有 機 炭 素 (DOC)	1.5	1.5		1.5	1.5	1.5	2
p H 値	7.4	7.2		7.4	7.2	7.3	2
生 物 化 学 的 酸 素 要 求 量 (BOD)	1.1	0.9		1.1	0.9	1.0	2
浮 遊 物 質 (SS)	8	32		32	8	20	2
大 腸 菌	3.0	93		93	3.0	48	2
嫌 気 性 芽 胞 菌	41	28		41	28	35	2
ふ っ 素	0.21	0.20		0.21	0.20	0.21	2
ク リ プ ト ス ポ リ ジ ウ ム	0	0		0	0	0	2
ジ ア ル ジ ア	0	0		0	0	0	2

※ 1月11日は、積雪により採水不可。

二本松橋 (シラルトロ湖流下後)

水域類型：河川A

	4月18日	10月14日	1月11日	最大	最小	平均	回数
当 日 天 候	曇り	晴れ	晴れ				
水 温							0
濁 度							0
色 度 (390nm)							0
電 気 伝 導 率							0
臭 気							0
2-メチルイソホﾞルネオール							0
ジ エ オ ス ミ ン							0
ア ン モ ニ ア 態 窒 素							0
硝 酸 態 窒 素							0
亜 硝 酸 態 窒 素							0
全 リ ン							0
全 窒 素							0
紫 外 部 吸 光 度 (260nm, 50mm)							0
溶 解 性 総 有 機 炭 素 (DOC)							0
p H 値							0
生 物 化 学 的 酸 素 要 求 量 (BOD)							0
浮 遊 物 質 (SS)							0
大 腸 菌							0
嫌 気 性 芽 胞 菌							0
ふ っ 素							0
ク リ プ ト ス ポ リ ジ ウ ム							0
ジ ア ル ジ ア							0

※ 通行止めにより通年採水不可。

細岡（達古武湖流入後）

水域類型：河川A

	4月18日	10月14日	1月11日	最大	最小	平均	回数
当日天候	曇り	晴れ	晴れ				
水温	8.5	11.9	0.9	11.9	0.9	7.1	3
濁度	4.8	8.8	3.7	8.8	3.7	5.8	3
色度 (390nm)	5.0	8.2	3.5	8.2	3.5	5.6	3
電気伝導率	160	154	197	197	154	170	3
臭気	藻臭	藻臭	微藻臭	藻臭	微藻臭		3
2-メチルイソホールネオール	0	0.000028	0	0.000028	0	0.000009	3
ジエオスミン	0.000003	0.000002	0.000001	0.000003	0.000001	0.000002	3
アンモニア態窒素	0	0	0	0	0	0	3
硝酸態窒素	0.37	0.42	0.57	0.57	0.37	0.45	3
亜硝酸態窒素	0	0	0	0	0	0	3
全リン	0.054	0.043	0.042	0.054	0.042	0.046	3
全窒素	0.51	0.44	0.62	0.62	0.44	0.52	3
紫外部吸光度 (260nm, 50mm)	0.244	0.410	0.169	0.410	0.169	0.274	3
溶解性総有機炭素 (DOC)	2.1	3.0	1.4	3.0	1.4	2.2	3
pH値	7.3	7.2	7.2	7.3	7.2	7.2	3
生物学的酸素要求量 (BOD)	1.4	0.9	2.3	2.3	0.9	1.5	3
浮遊物質 (SS)	20	20	8	20	8	16	3
大腸菌	4.1	160	13	160	4.1	59	3
嫌気性芽胞菌	28	10	29	29	10	22	3
ふっ素	0.15	0.14	0.16	0.16	0.14	0.15	3
クリプトスピリジウム	0	0	0	0	0	0	3
ジアルジア	0	1	0	1	0	0	3

岩保木（久著呂川合流後）

水域類型：河川A

	4月18日	10月14日	1月11日	最大	最小	平均	回数
当日天候	曇り	晴れ	晴れ				
水温	9.1	12.1		12.1	9.1	10.6	2
濁度	5.8	8.5		8.5	5.8	7.2	2
色度 (390nm)	5.4	9.2		9.2	5.4	7.3	2
電気伝導率	156	147		156	147	152	2
臭気	藻臭	藻臭		藻臭	藻臭		2
2-メチルイソホールネオール	0	0.000022		0.000022	0	0.000011	2
ジエオスミン	0.000003	0.000002		0.000003	0.000002	0.000003	2
アンモニア態窒素	0	0		0	0	0	2
硝酸態窒素	0.36	0.40		0.40	0.36	0.38	2
亜硝酸態窒素	0	0		0	0	0	2
全リン	0.049	0.039		0.049	0.039	0.044	2
全窒素	0.49	0.48		0.49	0.48	0.49	2
紫外部吸光度 (260nm, 50mm)	0.262	0.443		0.443	0.262	0.352	2
溶解性総有機炭素 (DOC)	2.1	3.5		3.5	2.1	2.8	2
pH値	7.2	7.1		7.2	7.1	7.2	2
生物学的酸素要求量 (BOD)	1.3	1.2		1.3	1.2	1.2	2
浮遊物質 (SS)	18	15		18	15	16	2
大腸菌	9.8	440		440	9.8	225	2
嫌気性芽胞菌	26	17		26	17	22	2
ふっ素	0.14	0.12		0.14	0.12	0.13	2
藍藻類		211				211	1
珪藻類		1000				1000	1
緑藻類		30.0				30.0	1
その他		10.0				10.0	1
クリプトスピリジウム	0	0		0	0	0	2
ジアルジア	0	0		0	0	0	2

※ 1月11日は、積雪により採水不可。

(2) 湿原湖沼

	シラルトロ湖	塘路湖	達古武湖
	10月14日	10月14日	10月14日
当日天候	晴れ	晴れ	晴れ
水温	13.0	14.5	13.5
濁度	3.7	12	7.5
色度 (390nm)	17	15	18
電気伝導率	165	104	158
臭気	微藻臭	かび臭	藻臭
2-メチルイソホルネオール	0.000003	0.000248	0.000003
ジェオスミン	0.000004	0.000003	0.000008
アンモニア態窒素	0	0	0
硝酸態窒素	0.03	0.04	0.16
亜硝酸態窒素	0	0	0
全リン	0.082	0.052	0.046
全窒素	0.19	1.30	0.51
紫外部吸光度 (260nm, 50mm)	0.680	0.780	0.804
溶解性総有機炭素 (DOC)	4.4	5.8	5.8
pH値	7.0	8.4	7.4
生物学的酸素要求量 (BOD)	1.7	3.5	2.5
浮遊物質 (SS)	4	16	8
大腸菌	260	64	91
嫌気性芽胞菌	0	1	6
ふっ素	0.12	0.06	0.10
藍藻類	109	2220	470
珪藻類	858	5680	1520
緑藻類	30.0	120	200
その他の他	80.0	80.0	100

(3) 釧路川支川

試料採水場所	下鑑別橋	磯分内橋	タワ川橋	下オソベツ橋	五十石川橋	ヌマホロ橋	コッタロ橋	光橋
試料区分	鑑別川	磯分内川	多和川	オソベツ川	旧オソベツ川	ヌマホロ川	コッタロ川	久著呂川
水域類型	河川A A	河川A A	河川A A	河川A	河川A	河川A	河川A	河川A
採取年月日	9月15日	9月15日	9月15日	9月15日	9月15日	9月15日	9月15日	9月15日
当日天候	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
水温	11.0	11.4	9.8	12.0	11.7	12.5	10.2	13.5
濁度	0.51	2.6	8.1	2.8	5.4	1.9	3.1	0.90
色度 (390nm)	1.8	4.7	5.1	5.1	6.4	6.0	5.9	4.1
電気伝導率	113	102	122	102	113	89	79	75
臭気	なし	微沼沢臭	なし	なし	微青草臭	微青草臭	なし	なし
アンモニア態窒素	0	0	0	0	0	0	0	0
硝酸態窒素	0.61	0.62	0.94	0.59	0.70	0.51	0.50	0.31
亜硝酸態窒素	0	0	0	0	0	0	0	0
全リン	0.017	0.038	0.051	0.045	0.068	0.025	0.037	0.016
全窒素	0.90	0.70	1.07	0.63	0.95	0.54	0.58	0.40
紫外部吸光度 (260nm, 50mm)	0.088	0.228	0.225	0.249	0.284	0.283	0.273	0.199
溶解性総有機炭素 (DOC)	0.8	1.3	1.3	1.4	1.5	1.5	1.4	1.2
pH値	7.5	7.5	7.5	7.4	7.4	7.5	7.4	7.5
生物学的酸素要求量 (BOD)	1.2	1.2	1.1	1.0	1.4	1.1	1.2	1.1
浮遊物質 (SS)	1	9	21	6	22	4	12	2
大腸菌	30	37	120	270	1300	160	220	41
嫌気性芽胞菌	1	0	6	2	4	0	0	0

5. 音別川水質試験結果

音別川 千歳橋

	9月27日	12月6日	最大	最小	平均	回数
当日天候	晴れ	晴れ				
水温	14.2				14.2	1
濁度	0.86				0.86	1
色度 (390nm)	3.8				3.8	1
電気伝導率	158				158	1
臭気	なし				なし	1
アンモニア態窒素	0				0	1
硝酸態窒素	0.26				0.26	1
亜硝酸態窒素	0				0	1
全リン	0.010				0.010	1
全窒素	0.29				0.29	1
紫外部吸光度 (260nm, 50mm)	0.216				0.216	1
溶解性総有機炭素 (DOC)	2.1				2.1	1
pH値	7.8				7.8	1
生物学的酸素要求量 (BOD)	1.0				1.0	1
浮遊物質 (SS)	1				1	1
大腸菌	16				16	1
嫌気性芽胞菌	0				0	1
クリプトスポリジウム	0				0	1
ジアルジア	0				0	1

※ 12月6日は、積雪により採水不可。

音別川 陽光橋

	9月27日	12月6日	最大	最小	平均	回数
当日天候	晴れ	晴れ				
水温	14.8	2.6	14.8	2.6	8.7	2
濁度	0.83	0.32	0.83	0.32	0.58	2
色度 (390nm)	3.8	1.5	3.8	1.5	2.7	2
電気伝導率	154	175	175	154	165	2
臭気	微沼沢臭	なし	微沼沢臭	なし		2
アンモニア態窒素	0	0	0	0	0	2
硝酸態窒素	0.24	0.28	0.28	0.24	0.26	2
亜硝酸態窒素	0	0	0	0	0	2
全リン	0.009	0.009	0.009	0.009	0.009	2
全窒素	0.32	0.29	0.32	0.29	0.31	2
紫外部吸光度 (260nm, 50mm)	0.209	0.098	0.209	0.098	0.154	2
溶解性総有機炭素 (DOC)	2.5	1.3	2.5	1.3	1.9	2
pH値	7.9	6.9	7.9	6.9	7.4	2
生物学的酸素要求量 (BOD)	1.0	0.8	1.0	0.8	0.9	2
浮遊物質 (SS)	0	0	0	0	0	2
大腸菌	14	3.0	14	3.0	8.5	2
嫌気性芽胞菌	0	0	0	0	0	2
クリプトスポリジウム	0	0	0	0	0	2
ジアルジア	0	0	0	0	0	2

音別川 初音橋

	9月27日	12月6日	最大	最小	平均	回数
当日天候	晴れ	晴れ				
水温	15.7	3.4	15.7	3.4	9.6	2
濁度	1.0	0.47	1.0	0.47	0.73	2
色度 (390nm)	3.3	1.3	3.3	1.3	2.3	2
電気伝導率	161	172	172	161	167	2
臭気	微沼沢臭	なし	微沼沢臭	なし		2
アンモニア態窒素	0	0	0	0	0	2
硝酸態窒素	0.32	0.42	0.42	0.32	0.37	2
亜硝酸態窒素	0	0	0	0	0	2
全リン	0.011	0.011	0.011	0.011	0.011	2
全窒素	0.38	0.46	0.46	0.38	0.42	2
紫外部吸光度 (260nm, 50mm)	0.192	0.092	0.192	0.092	0.142	2
溶解性総有機炭素 (DOC)	2.0	1.2	2.0	1.2	1.6	2
pH値	7.9	7.0	7.9	7.0	7.5	2
生物化学的酸素要求量 (BOD)	0.5	1.4	1.4	0.5	1.0	2
浮遊物質 (SS)	1	0	1	0	0	2
大腸菌	22	250	250	22	136	2
嫌気性芽胞菌	0	0	0	0	0	2
クリプトスポリジウム	0	0	0	0	0	2
ジアリジア	0	0	0	0	0	2

6. 釧路川水質保全協議会

(1) 沿革

釧路川の水質保全を図ることを目的に、昭和47年1月に「釧路川水質協議会」が発足し、平成6年8月に「釧路川水質保全協議会」と改めた。

会員は、弟子屈町、標茶町、釧路町、鶴居村、釧路市漁業協同組合、日本製紙(株)釧路事業所、標茶町農業協同組合、摩周湖農業協同組合、釧路市の9団体で、釧路開発建設部、北海道釧路総合振興局保健環境部、北海道釧路総合振興局釧路建設管理部、北海道釧路総合振興局保健環境部保健行政室の4機関が顧問となっている。

(2) 長期的目標と活動状況

平成17年度に『地域住民と地域産業が一体となって釧路川の水質汚濁を発生させない環境をつくる』という釧路川水質保全の長期的目標を設定し、令和4年度はこの長期的目標に基づき、釧路空港ビルにおいて啓発パネルを展示し、水質保全活動に関する啓発を行った。

項 目	内 容 及 び 結 果
①第28回総会の開催	日 時 令和4年6月20日 場 所 書面開催 出席者 会員9団体及び顧問4団体
②「釧路川だより」発行	内 容 協議会やその取り組み内容、釧路川に関する情報など 第41号及び第42号を発行した。
③釧路湿原自然再生協議会への参加	国土交通省と環境省が実施する「釧路湿原自然再生事業」の地元検討組織である釧路湿原自然再生協議会の委員として、同水循環小委員会に出席した。
④釧路川水質保全についての啓発	釧路空港ビルにおいて啓発パネルを展示し、釧路川の水質を保全するよう啓発を行った。